

一般投稿作品紹介

沖縄らしい景観  
まちなみづくりシンポジウム

今と未来

沖縄の風景

歌に詠まれた



泊高橋に琉歌の石碑を見つけました。

「泊高橋に なんじゃじふわ落ち いちか夜ぬ開きて とめてさすら」

車の交通量が多く慌ただしい場所でも、歴史を感じられるような歌があり残り続けることに趣きを感じます。

## 那覇市歌

「あけぼの清き 南（みんなみ）の  
港にぎわう 百船（ももふね）や  
まちはいらかの 数増して  
弥（いや）栄えゆく わが那覇市」

※那覇の面する海は曙登らないんですが、この歌詞で子供の頃からよく見た那覇全貌を思い浮かべます





### 那覇市歌

「守礼の邦の 城下町  
歴史の息吹 受け継がん  
万国津梁 ここにあり  
あしたをひらく わが那覇市」

私の世代にとっては守礼門が沖縄の文化のシンボルでした子供の頃首里城なかったので



#### 恩納村歌

「太平洋の黒潮を  
うけて轟く万座毛  
あゝ天然の美たぐいなき  
神のみわざの 尊さよ 尊さよ」

#### 恩納ナビーの琉歌

「波の声もとまれ 風の声もとまれ 首里天  
がなし 美御機拝ま」

※万座毛は昔は出入り自由でいとこたちとの  
楽しい遊び場でした。恩納村歌では 大自然  
の尊さを歌っていますが恩納ナビーはその大  
自然に「とまれ」と命令しているのですから  
やはり天才ですね



識名村腰当て  
島尻や前なち  
眺みてぬ美しさ  
上間バンタ

理由：

私の住む那覇市上間集落（旧識名村）には、島尻を見渡せる素敵な場所（バンタ：崖）があります。この琉歌は、バンタにある歌碑です。

今の夜景も見事ですが、明かりの無かった時代にもここからの景色を愛でていた先人がいると思うと、その頃からの風景に思いを馳せることができます。



歌：

母に抱かれていつも見た

光り輝く

於茂登岳

(石垣小学校行進曲)

理由：

久しぶりに家族で故郷の山登り。

小学生の頃に歌ったこの曲を口ずさみながら、

子供達と一緒に於茂登岳を

眺めることができました。



歌：  
または一りぬ  
ついんだら  
かめしゃまよー  
(安里屋ユンタ)

理由：  
意味はまた会いましょう、美しい人よ。  
とのことですが水牛車にのりながらオジィが  
歌ってくれたこの歌と竹富島の風景が脳裏に  
焼き付いています。また行きたい！！



## 汗水節

「汗水ゆ流ち働ちゆる人ぬ心嬉しさや他所ぬ  
知ゆみ」

畑の風景はまさに 汗水節 の世界を感じま  
すが、豊見城の橋を見るたび、「人」という  
字に見えて、作った「人」の尊い働きに感謝  
できます。人間の仕事ってすごいなって思い  
ます。





歌：

赤きいらかを

つらねたる

しんこうのまち

わが故郷

(糸満小学校 校歌)

理由：

山巔毛（さんていんもう）からの眺めは、赤瓦の家並み美しかったことが歌われています。先の大戦で消失していますが、古写真などを見ると誇れる風景がここにあったことを語り継いでいきたいと思います。



聞得大君の  
おすぢお光に  
旅の道ひろく  
行きやい来ちやい  
(「おもろそうし」より)

歌の意味は、「聞得大君の御霊光のおかげで、旅の道がひろく何の障害も無く無事に行ったり来たりすることができるようになった。まことに目出たいことである」

首里城から真珠道を通すためにできた真玉橋。そのことを祝った古琉歌とのこと。人柱伝説もあるこの橋ですが、今の生活に欠かせないこの橋が古くから歌われていることを語り継いでいきたいです。



歌：  
御万人(うまんちゅ)  
にぎわう 1マイル  
誇れる郷土(しま)に  
笑顔咲く  
(那覇市歌 4番)

理由：  
戦後の復興のシンボルで「軌跡の1マイル」  
と称される、沖縄のシンボルです！！



歌：  
天川の池に 遊ぶおし鶏の思い羽の契り他所  
や知らぬ（天川節）

理由：  
この川の仲睦まじい鳥の姿に夫婦愛を歌う沖繩の代表歌。天川節が歌われる限り、この風景や歴史、そして夫婦愛を大事にしていきたいと思います。

あざかでの  
**字嘉手納のンブガー**

別名：アザリガーとも呼ばれる井戸で、この井戸は早蕨が乾いても枯れることはなかったと伝えられている。

字嘉手納集落では、子どもが生まれると「サン(魔除け)」を結わえた桶で、東に向かって水を汲み、その水を産湯に使用し健康祈願をおこなった。

本来は旧嘉手納中央公民館の駐車場に位置していたが、戦後、現在の場所に新たに井戸の模型を作り、拝所として利用している。

**Mings of Aza Kadema**  
According to legend, Mings, a well also known as Azariga, never dries no matter how long a period drought continued. ...  
When babies were born in the Kadema settlement, people used to take water with a pot in which a net of mung bean pods had been dried for one week and used the water to give the babies their first bath to pray for their health. Mung bean sprouts and bean flowers will bring, for of the former Ryukyu Capital (modern-day Naha), Okinawa Prefecture. It is a symbol of the well was installed in the present location, since that it was once used as a sanitary.

**字嘉手納産湯**  
昔、一帯にアザリガと呼ばれる井戸があり、早蕨の干し草を桶に入れてお湯を汲み、産湯に使ったと伝えられています。早蕨の干し草は、産湯に使ったと伝えられています。早蕨の干し草は、産湯に使ったと伝えられています。早蕨の干し草は、産湯に使ったと伝えられています。

**字嘉手納の産湯**  
昔、一帯にアザリガと呼ばれる井戸があり、早蕨の干し草を桶に入れてお湯を汲み、産湯に使ったと伝えられています。早蕨の干し草は、産湯に使ったと伝えられています。早蕨の干し草は、産湯に使ったと伝えられています。早蕨の干し草は、産湯に使ったと伝えられています。

---

あまかわ  
**天川の井戸**

本来は、字嘉手納のンブガーの西隣に位置し、直径二尺程度の円筒形に積み上げられた井戸であった。

天川節に登場する「天川の池」は、この天川の井戸から比嘉川へ流れ出る水路の途中にできた池とされている。

**Well of Amakawa**  
Originally, the well was in a cylindrical shape with a diameter of approximately 40 cm located to the west of Mings of Aza Kadema.  
The pond of Amakawa that appears in Amakawa Bunko, a local folk song, is said to be a pond that was made by the middle of a waterway that flows from this well to the Amakawa.

**天川の井戸**  
本来は、字嘉手納のンブガーの西隣に位置し、直径二尺程度の円筒形に積み上げられた井戸であった。

**天川の井戸**  
本来は、字嘉手納のンブガーの西隣に位置し、直径二尺程度の円筒形に積み上げられた井戸であった。



歌：

宇地泊まさご  
てだどまぎらしゆる  
お月まぎらしゆる  
浜のまさご

理由：

仕事で宇地泊節を知り、宇地泊にも美しい白浜があること、埋め立てで砂浜はなくなったがトロピカルビーチに運搬されたことを知り面白く思いました。

写真はトロピカルビーチですがかつての宇地泊にもこのような景色があったことを知れる歌があり興味深く思います。

歌：  
はごろも小学校校歌

理由：  
「美底の山に陽がのぼり」という歌詞部分ですが普天間基地への高台の斜面に美底山御嶽があるそうです。

建物が多くあまり風景として映りませんが、今の風景に置き換えて田芋畑を投稿させていただきます。





場所：  
瀬長島

歌詞：  
「世間とよまれる 瀬長山見れば 花や咲き  
美しさ 匂しほらしや」

画像：  
瀬長島はよく遊びに行った思い出の場所です。  
平敷屋朝敏の時代から親しまれているのは感  
慨深いものがあります。





場所：

与那原親川

(沖縄県島尻郡与那原町与那原556)

歌詞：

「与那原の親川 あまくらかみちゃうん な  
まくらやあらぬ 思姉おすじ」

画像：

街中でも神聖な雰囲気を感じられる風景です。



場所：  
くわんばし

歌詞：  
情け思ゆらば  
わが行きゆる  
先に向かて  
枝させやう  
小湾小松

画像：  
うたの歌詞から昔の情景が目に浮かびます



歌：

むんじゆる平笠ちゅらむぬや 女童まちぢに  
ちい据してい（ちゅらむぬや）花染み手さじ  
や前に結でい 二才惚らしむぬ（花染やう）

意味：

むんじゆる平笠は美しい 娘さんの頭上に  
ちよこつとのせて花染手拭を帯の前に結んで  
青年たちを虜にしている

コメント：

昨年家族と遊びに行った粟国島で見た歌碑の  
歌です。

「むんじゆる」と聞くと、歌碑があった場所  
から見た海が広がる景色や粟国島の楽しい思  
い出がうかできます。

八重瀬町在住

## 首里高校校歌

母校の校歌の歌い出しが

「仰げば高し弁が岳～」から始まります。

在学時はあまり弁が岳に馴染みはありませんでしたが、大人になって義実家の近くということで通うことが多くなり、通るたびに自然と校歌を口ずさんでいます。卒業後10年以上経っても口ずさめることに懐かしさと驚きを感じています





場所：  
三重城

歌詞：  
「三重城にのぼて 手巾持上げれば 速船のな  
らひや 一目ど見ゆる」

画像：  
琉歌「花風」に出てくる三重城。かつては人  
を見送る場所であり、今は祈る場所にもなっ  
ている、時代の移り変わりを感じることで  
きる風景です。



場所：

南城市にある久高島。

歌：

久高小中学校の校歌で2番が五穀のはじまり  
神の島～という言葉から始まります。ここから  
琉球が始まったんだな～という思いもあり、  
毎日久高島を見てパワーを貰っているので、  
真っ先にこの校歌を思い出し、投稿致しました。

南城市在中 50代



場所：

南城市にある知念の海と町並み（写真は歌碑のある場所からの眺めと海側からの2枚）

歌：

組踊りの演目で人気もある

【手水の縁】

（歌碑：知念字具志堅）

若い男女が惹かれ合い恋仲となるが、恋愛がご法度の時代。

噂が広まり知念の浜で処刑されることになった彼女を彼が命がけで役人に乞い願いをし、その心情にほだされた役人たちが密かに二人を逃し若い恋が成就したという舞台の一部にもなったこの場所。

今は自由恋愛ではあるのだけれど。。色々考え深いものである。

南城市在中 50代

(久米バンタ前節) 比屋定バンタ

歌：

はんた前の下り 溝わてどよこす  
三十ませ三ませさんじゅましみまし 真水こ  
めて

読み：

はんためぬくだい  
んじゅわていどうゆくす  
さんじゅましみまし  
まみじくみてい

意味：

はんた前の傾斜地に溝を掘って水を引く。  
たくさんの田んぼに水がいきわたり、なんと  
喜ばしいことでしょう。

理由：

見渡すような田んぼに代わり、さとうきび畑  
と、晴れ渡る空、ハテの浜。先人も眺めたこ  
の景色、なんと今も素晴らしいことでしょう。







歌詞：

小禄（ウルク） 豊見城（ティミグシク）  
垣花（カチヌハナ）三村  
三村（ミムラ）ぬ あん小達（グワーター）  
が  
揃（スリ）とうて 布（ヌヌ）織（ウ）い話  
（バナシ）  
糸筋（アヤ）違（マミ）ぐなよ  
元（ムトウ）かんじゅんどー

意味：

お姉さん達よー、織り間違えるなよ、元が大事だよー

理由：

絣の産地であったという3村の在りし日を伝えてくれるこの歌。

連なった3つの村で地域性が今に伝えられています。



歌詞：

潮平（スンジャ） 兼城（カナグシク） 糸  
満（イチマン）と三村 三村ぬ アン小達  
（グワーター）が 揃（スリ）とーてい  
魚（イユ）売（ウ）い話（バナシ）  
安（ヤシ）売（ウ）いすなよー  
元（ムトウ）かんじゅんどー

意味：

お姉さん達よー、安売りするなよ、元が大事  
だよー

理由：

漁業基地として栄えた3村の在りし日を伝えて  
くれるこの歌。

連なった3つの村で地域性が今に伝えられて  
います。



歌：

勝連の阿麻和利 勝連の阿麻和利 十百歳  
(とひやくさ) ちよわれ  
肝高の阿麻和利  
勝連と 似せて  
肝高(きむたか)と 似せて  
【「おもろそうし」第十六巻】

意味：

勝連の阿麻和利様、貴高い阿麻和利様よ、千年も末長くましまして勝連を治め給え。阿麻和利様には品位ある勝連こそがふさわしいのです

理由：

地元の偉人として君臨した王の威信を強く感じる歌とこの風景を大事にしていきたい。

(壺屋) じんじん

曲・歌詞：じんじん

じんじん じんじん  
壺屋 (ちぶや) め水飲 (みじめ) でい  
落 (う) ていりよーじんじん  
下 (さ) がりよーじんじん

意味：

ホタル ホタル 壺屋の水を飲んで 落ちてこ  
いホタル 落ちてこいホタル

理由：

沖縄の子どもたちに今も愛されるこの歌から、  
壺屋や久茂地が整備される以前の風景がうか  
がえます。





(ちよんちよんキジムナー)  
名護のひんぷんガジュマル

歌：

「ちよんちよんキジムナー」  
ちよん ちよん ちよん ちよん  
ちよん ちよん ちよん ちよん  
キジムナーが ちよん ちよん

理由：

キジムナーが宿るといわれるガジュマル。古いものや大きなものをみると「きっといるはず」と思ってしまう沖縄固有の風景だと思います。

(ナークニー) 本部町の海岸線

歌：

ナークニー (第1番)

渡久地から上てい 花ぬ元辺名地ヨ 遊び健堅  
ぬ 恋し本部

歌詞意訳：

(本部町)

渡久地から崎本部へ向かう、ああ恋しい

理由：

情景と慕情の深い琉球歌「ナークニー」

あの人に会いたい恋心や、出会いを求めて向かう毛遊び(合コン)へのはやる心やロマンチックが見事だと思います。この風景を見ながらする合コンは今のビーチパーティなんだと思うと感慨深いです。





(国頭サバクイ) 国頭村～首里

歌：  
国頭サバクイ

首里天じゃなしめ  
ヨイシーヨイシー /  
サー 御材木だやびる  
ヨイシーヨイシー /  
ハイユエー ハーラーラ

歌詞意訳：  
王様のために、国頭から材木を運びだすよ

理由：  
首里城再建に向けて、令和の国頭サバクイが見られて感動しました。



(赤田首里殿内)  
首里赤田の弥勒さま

歌：  
赤田首里殿内（あかたすんどぅんち）

赤（あか）田（た）首（す）里（ん）殿  
（どぅん）内（ち）  
黄金（くがに）灯笼（どゥる）提（さ）ぎ  
てィ  
うりが明かがりば 弥勒（みるく）迎（う  
ん）けー

理由：  
子守唄で聞かされ、子供にも歌ってきかせた  
この歌。  
初めて弥勒様を見た子どもたちは何とも言え  
ない顔をしていたことを、懐かしく思います。



(ナークニー) 名護のガジュマル

歌：

ナークニー

だんじゅ豊まれる名護の番所

松とガジュマルの持たえ栄え

歌詞意訳：

名護の番所が評判高いのは なるほどもっと  
もだ

松とガジュマルの木が抱き合うように  
繁栄し栄えている

理由：

この景色にとこの歌。風格と風情が市民の誇りです。





曲名：三村踊り節  
楽曲：沖縄民謡  
場所：那覇市泊近郊  
歌詞：2番の最初

歌詞：

上泊、泊、元の泊の三村で製塩  
辻、仲島、渡地の三村で遊郭  
潮平、兼城、糸満の三村で魚売り  
赤田、鳥小堀、崎山の三村で泡盛

エピソード：

今では離島への船が発着し観光客が訪れる泊港ですが、昔は塩を作ったり離島と食物のやり取りをしたり生活に密接な港だったんだなと感じ取れる内容でした。

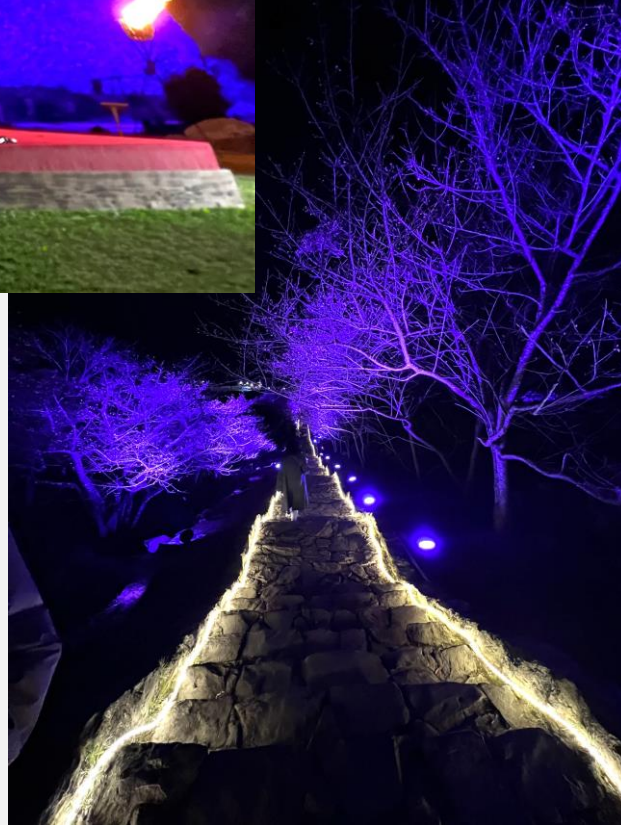
近年はノマドワーカーも訪れるロケーションとなりそれに適したホテルも建って少し都会的なイメージもあります。



曲名：じんじん  
楽曲：民謡  
場所：国際通り久茂地・松尾  
歌詞：3番

歌詞：  
じんじん じんじん  
久茂地（くむじ）ぬ水飲（みじめ）でい  
落（う）ていりよーじんじん  
下（さ）がりよーじんじん

エピソード：  
沖縄で1番の都会は久茂地の印象があります。  
国際通りや路地の風景一部を切り取ると  
東京の新橋と変わらない雰囲気も感じます。  
ですが昔から流れる川もあり昔はホテルも居  
たのだなと  
意外と身近な民謡で知ることが出来ます。

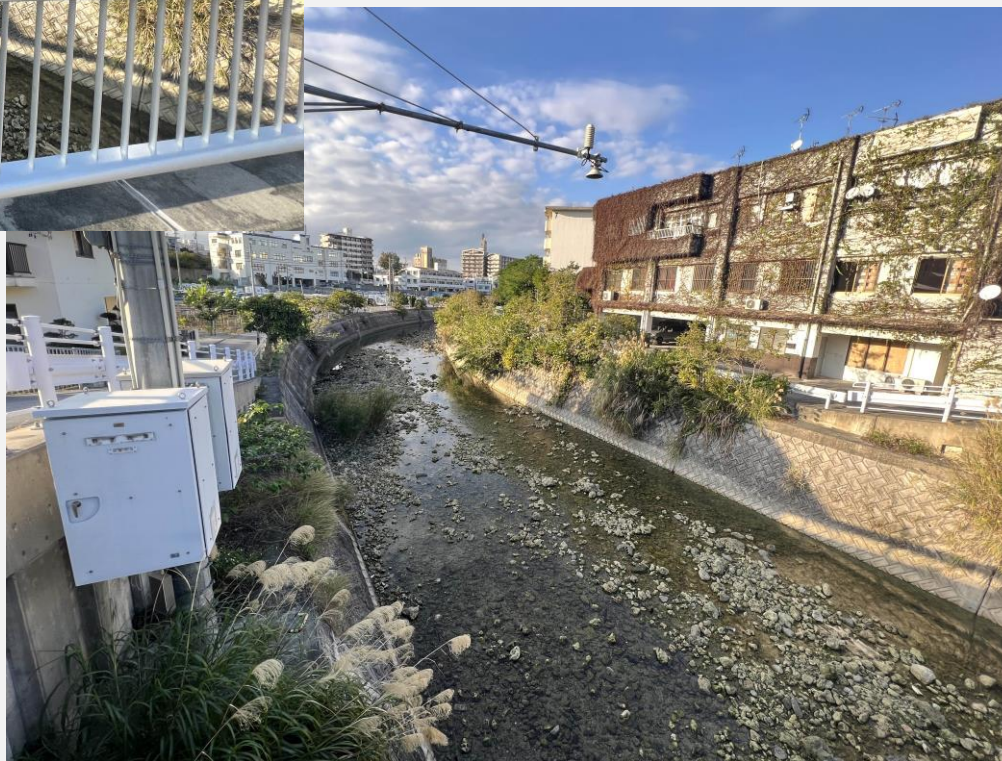
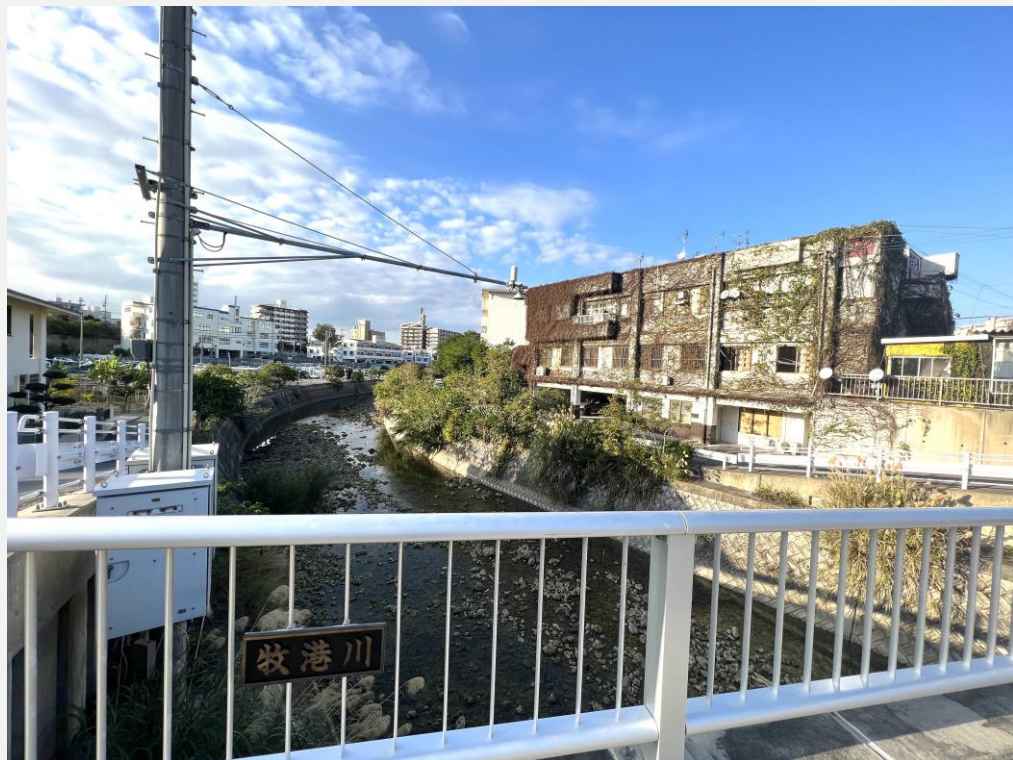


曲名：  
今帰仁の城節 楽曲：民謡

場所：  
今帰仁村

歌詞：  
今帰仁の城霜ないの九年母志慶真乙樽がぬぎ  
やいはきやい

エピソード：  
今帰仁の北山王の奥様だった乙樽（うとっだる）の歌です。最近ドラマ「尚巴志」で大城優紀さんが演じる乙樽も美人でしたが実は近年、今帰仁城の桜まつりには現代の美女であるアイドルをイメージする日があります。その日限定で、そのアイドルのカラー「紫」に城壁はライトアップされご本人も度々ライブをしに訪れています。昔も今も美女にご縁のある今帰仁城跡が私は好きです。



曲名：牧港姉小  
楽曲：民謡  
場所：浦添市牧港の牧港川  
歌詞：冒頭

歌詞：  
牧港あんどわたあが  
橋め下降りとして  
白せえすくてめうすが  
ちゅい夫小に呉ゆん  
ちゅい夫小に呉たくと  
ちんてえとうせ  
むってえとうせ  
ハーリガヨウスー  
サースイヤサアユイー

エピソード：  
牧港川は昔美しかったと話す人が地元には多いです。だからこそ魚をとったり水くみをしたりこの歌のように農村風景だったことを想像します。最近はゴミが多く泡が浮いていることしばしばですが海から離れた橋の下を覗くと昔ながらの澄んだ空気感が残っているかも…と個人的に好きな角度で写真を撮ってみました。

曲名：浦添市民音頭（歌詞：1番）

楽曲：市曲

場所：浦添城近郊

歌詞：

わした浦添 世果報街

古い都の なごりをとめて

浦添 城 ウネウネ夢のあと

ユイサヒヤマタ カリユシウラソエ

ユイサヒヤマタ カリユシカリユシ

サッサ ハイヤ

エピソード：

浦添市内にある小中高校のほとんどの歌詞に登場する浦添自慢の浦添城・よーどれは昔は牧港に外国から来る船をここから発見したり首里の町や首里城あたりまで眺められる今でいう超好立地物件だったと思います。

戦地でもあり米軍ファミリーが訪れる姿をよく見かけます。遠足・デート・昔は飲み会でも行った城跡は気分転換にピッタリの気持ちいい景色が広がっています。今回は浦添市民音頭をピックアップした理由は浦添市役所へ電話をかけると小気味良いこの曲が保留音として元気いっぱい流れるので、多くの市民が耳にする曲として選びました。





歌：  
伊野波節

伊野波の石こびれ  
無蔵つれて登る  
にやへも石こびれ  
遠さはあらな

意味：

「伊野波の石ころ道の坂は、大変難儀なところであるが、愛する女性と連れだってお互いに語り合いながら行くときはもっと遠くあってほしいと思う。」

理由：

「恋の風景」といえば伊野波節。  
歌の仲間と、このデートスポットを楽しんだ思い出と共に。

